

# 我が職場の安全活動

白田・八ヶ岳製品事業所〇渡 邊 義 廣  
井 出 良 二  
山 口 良 二

## 要 旨

労働安全衛生の確保は、健康で明るい和のある職場をつくり、事業の実行上必要不可欠なものである。

事業所全員が一丸となって、無災害記録63年2月15日現在13万2千余時間、日数1159日間を達成した。

これをさらに大きく積み上げるため、日常の安全衛生活動を推進してゆきたい。

## はじめに

白田営林署は昭和60年度に局長から安全管理重点営林署の指定を受け、61年度5件の災害が発生し局全体で55件の9%を占める高い発生率となり、昭和62年5月～64年3月まで再度安全管理重点営林署の指定を受けた。

その中において八ヶ岳製品事業所の安全衛生活動は、白田営林署安全管理計画を基本に小集団活動をしている。

毎月一回雨降りのとき等に二時間程度の安全懇談会を行い、安全推進員が司会をし目標を定めたり、活動の中心になって活躍している。

前月の安全衛生活動を反省したあと、事業所独自の安全指導を行っているので、それを紹介するものである。

## I 事業地の概要

事務所の所在地、長野県南佐久郡小海町J R東日本小海駅より0.5 km、白田営林署より約15km、標高875 m、ここに八ヶ岳、三川、貯木場の合同事務所がある。

事業地はここを拠点にして、夏は八ヶ岳の麓、高石、野辺山、冬は大曲国有林と広範囲に亘っており通勤はミニバス2台で運行している。

事業地までは40km以上の場所ばかりであり観光地のため、交通量が多く、県下でも交通事故の多い地域である。安全運転、防衛運転に徹するように常に話し合って事故防止に努めている。

作業内容は、天然林のシラベ、コメツガと人工林カラマツの全幹伐倒、集造材巻立（一部最終生産）の作業を2セットで行い事務所を含めて計18名で実行している。

1セット人員は7名、平均年齢は46.2才で署平均よりやや若い。

## I 安全懇談会の内容

安全推進員が安全懇談会の司会をし毎月の目標（その月の重点目標4項目程度）を立て全員に周知徹底し、前月の安全活動の反省をする。

また、毎朝その週の安全目標を大声で読みあげて全員が復唱するなど、活動の中心となって活躍している。

前月の反省のあと“メモ情報”による独自の安全指導を行っている。

1. 事業所の過去3か年の災害件数は5件であり、これを無くすにはどうしたら良いか、また上部からの指示文書をどのように伝えるか、一方通行あるいは押しつけにならないようにするにはどうするか。

また、“安全の話しか”ということで話しの途中でいねむりをさせないためにはどうしたら良いか、休んだ人にはどう伝えるか、俺は聞かなかった、知らなかったを無くすためにはどうするかが動機で始めたのが、独自のメモ情報である。

2. 前月の安全活動反省のあと“メモ”を全員に配り指導している。

指差呼唱にあやかり、目で見て、耳で聞き頭に入れる方法で取り入れた。トラクター、伐木造材、集材機などの作業基準、作業要領等の約束ごとが沢山あり、この約束からはずれた作業、行動をとらないことを指導している。

その結果10月頃から効果が出はじめた、それは災害速報を載せたメモ情報への反応であった。災害速報は、類似災害を出さないために事業所全員で討議分析するのであるが、メモ情報はポイントのみ記載されているので、主任が署から配付された公務災害速報を読んだだけでは分析し難い。そのために災害の内容を書いて欲しいとの注文が出たので、公務災害の概要を書いて配布したところ“主任”字が違っていると発言が返って来た。

この一言は私の胸をジーンとさせる言葉であった。字の間違ひを見つけるということは、良く見て読んでくれていると感じたからである。

地球より重いこの生命を大切に、指差呼唱を忘れないでネ、を合言葉に頑張っている。

3. メモ情報の紹介

5月6日付

#### 八ヶ岳製品事業所安全メモ情報

指差呼唱を

完全に定着させよう！

指差呼唱は安全を確保する上で欠くことのできない重要なもの。

目で見て、指を差して、声を出して、確認することです。

八ヶ岳製品では次の事項を再確認をします。

- 受口よし
- 伐倒方向よし → 上方よし
- 周囲よし

当分のあいだ以上の三点を確実に定着させよう。

信号、合図の復習

私達の職場はグループです複数で作業をしています。

必ず定められた者が信号・合図を行い、受けた信号や合図は復唱すること。

はっきり合図、しっかり確認を定着させよう。

完全退避の励行

退避の不足は重大災害の要因です。退避場所の選定と標示

退避路は必ず確保することあと一足を惜しまず定めた場所まで退避すること。

安全はひとり一人が主役です。

同僚の体調に気をつけてやりましょう。

#### 5 月期重点目標（案）

- 一 一足を惜しまず定めた場所まで退避しよう。
- 二 自分が「ケガ」をしないようつとめよう。
- 三 県外車が多くなる防衛運転につとめよう。
- 四 自分の健康は自分で管理しよう。

#### 4 月分生産量

尚セット計 787<sup>m<sup>3</sup></sup>です。

当月分予定数量にたいして120%となりました。

指差呼称の定着、完全退避の励行、八ヶ岳で指差呼称の大きな声を“こだま”させようと呼びかけたメモである。

7月21日付

#### 八ヶ岳裂品事業所安全メモ情報

公務災害速報  
野尻署 2号 局累計14号  
阿寺国有林  
カモシカ防護柵杭採取

造 林

長野署 1号 局累計15号  
戸隠山国有林  
レク森林道

林 道

健康に注意しよう

暑い日が続きます。生活をリズムカルにマイペース

た、この数量のなかには橋梁材の特別注文材が含まれています。

5か所の橋材、寸目、長さが異なり苦労が多かったですが事故もなく完竣しました厚くお礼申し上げます。

リモコンチェーンソー

技術指導者研修

とき 5月19日～22日

場所 上松営林署管内

リモコンチェーンソーの取扱いを指導出来る者を養成する。

出席者名は後日書で通知があります。

八ヶ岳で指差呼称の大きな声を

こだませよう！

栄養の注意(バランス)心と身体をきたえる。  
(健康診断を進んで受ける)、自分の身体は自分で守り、検討し考えて、わからないことは、先生へ……。糖質を取りすぎないように塩分を少なめに1日10g

酒は少々常識1～1.5合、おつまみと一緒  
タバコ有害無益、感情、動脈がケイレン肺ガン

肥満(中年ぶとり)栄養の取りすぎ運動不足  
身長cmマイナス100、カケル0.9が標準体重プラス、マイナスの10%

身体がどうも変だと思うときは病院にゆき早期に治療する。

健康管理は当然安全にもつながります。

## 職業性疾病の予防

チェンソーを使用するときは、決められた時間を守ってください。

当署、振対委員会で定めた時間？

### 指示を受ける作業 (伐木)

- 1 危険と困難が予想されるかかり木の処理
- 2 危険と困難が予想される双生木の伐倒
- 3 つるからみ又は枝からみで危険と困難が伴う伐倒
- 4 通路又は集材若しくは運材設備の近くで、工作物の破損と危険の恐れがあるときの伐倒
- 5 枯損木、空洞木、著しい偏心木で伐倒に危険と困難が伴うもの及び足場を組まなければ伐倒できない立木の伐倒

作業基準の指導をし、重要点を各自にメモさせたときのものと、健康管理は安全につながる話しをしたときのものである。

10月1日付

## 八ヶ岳製品事業所安全メモ情報

### 公務災害速報

南木曾署5号 局累計 21号

大山製品事業所

9月7日 16時30分頃

先山伐倒の掃路

基 生産手 32才

左鎖骨骨折 全治3週間

奈良井署1号 局累計 22号

奈良井製品事業所

9月14日 13時30分頃

伐倒枝払い

基 生産手 38才

右足第2関節部鋸創、全治2週間の見込み

## 受口の作り方

受口の深さは

天然林の大径木は

胸高直径50cm以上は

角度は

みさくほ営林署

(白庶486号)

その後について

造林下刈

22~24日の三日間です

リモコン研修

7月25日 9.30~11.30

蜂さされ死亡災害の発生

青森営林局 零石営林署内において蜂さされ死亡事故が発生しました。

南木曾署6号 局累計 23号

蘭担当区

9月19日 9時35分頃

地拵

基 造林手 51才

左膝部切創約3cm 2針全治10日

トラクター作業実行上の留意事項

59.11.26 白庶第856号

59.10.29 大阪局、61.5.8 大阪局トラクター作業中重大災害発した。

1. 伐倒作業との近接作業は絶対に行わない。

- 2 重なっている伐倒木の集材は上部の材から荷掛する。
- 3 荷掛けは斜面上方で材が安定しているか確かめた後に荷掛する。
- 4 荷掛者は材の引出し易い位置にトラクターを誘導する。
- 5 引出し材が障害物にかかった場合は障害物を取り除くか、回避して引寄せろ。
- 6 急斜面で下方に材を引寄せる場合はトラクターの位置を十分配慮する。
- 7 荷掛者は引出し材の動きを安全な場所で見定め附近の樹木枝條等の飛来に注意する。
- 8 作業は荷掛が完了したり安全な場所（材長以上の場所）に退避してから合図等を行う。
- 9 作業者は運転手から良く見える安全な場所に位置し合図等を行う。
- 10 引寄せ作業中作業者は危険区域内へ立入らない。

### 生産事業災害状況

伐倒作業中予期しない方向に倒れたため  
 造成作業中ソーチェーンによる切創  
 集材作業中物の飛来落下及び動いた材に打たれる。  
 極積作業中滑落してきた材に打たれる。  
 その他鉋による切創

トラクター作業実行上の留意事項を再確認し、災害状況の分析、クサビを使用し伐倒方向を確実にすることなどの話しをしたときのものである。

1月23日付

### 八ヶ岳製品事業所安全メモ情報

#### 公災速報

松本署 2号 局累計 39号

松本製品事業所

1月18日 8時20分頃

盤台用敷板積込

内 自動車運転手 56才

王滝署 2号 局累計 40号

小俣製品事業所

1月18日 13時35分頃

全幹集造成

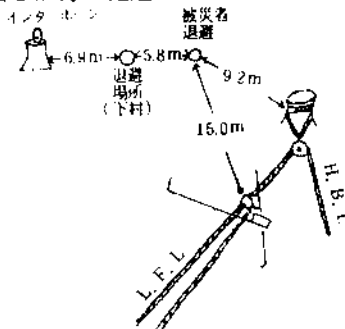
基 生産手 54才

当日被災者は同僚8名と共に、全幹集造材作業に従事していた被災者は同僚1名と共に荷掛け作業に従事し午後2回目の荷掛け（木曾ヒノキ枯損木長さ14.5m 元口径36cm末口24cmと木曾ヒノキ長さ5m 元口径62cm末口46cm）をおこ

なって退避をし同僚が運転手にリフチングライン巻きの信号を送った、集材機が巻上作業に入った時荷掛け材と交又していたと思われる枯損木（長さ19.8m 元口径24cm末口径6cm）が荷掛け材にすくわれた状態となり元口が振ってきて退避していた被災者の右背部に当り受傷した、なお被災者は当たったショックで約2m下方へ転倒した。

現地積雪15cm 林地傾斜16度  
 右肋骨々折、胸部打撲、右気胸疑い

全治2か月の見込み



安全の呼びかけ 63. 1. 20  
総務部長

新年を迎えて意を新たに、安全の確保に取り組んでいるところであるが、今月に入って3件の労働災害が発生している。しかもこのうち2件が集材機集材作業における災害で「材にうたれて」「スリングに打たれた」一歩間違えば重大災害となりかねない災害であり憂慮している。

特に次の点を確実に実行する。

1. 退避場所の選定は冬山特有の条件（積雪凍

2月10日付

### 八ヶ岳製品事業所安全メモ情報

#### 災害速報

奈良井署 2号 局累計 42号

羽瀨担当事務所

2月2日 10時45分頃

除伐（歩道作設）

基 造林手 50才

当日被災者は同僚5名とともに除伐作業のための通路作設作業に従事していた。

被災者は通路作設か所を移動するため、斜面を横切ろうとして谷側の左足に力を入れ、右足を踏み出した瞬間、地面が凍っていたためすべり転倒し約2mすべり落ち受傷した。

左耳部挫創、頸椎捻挫、胸椎打撲

全治2週間（痛みがとれれば軽作業可）

局1号 局累計 43号

若里寮

2月3日 9時50分頃

臨 炊事手 65才

被災者は同僚の炊事手1名とともに寮の給食の材料の購入に出かけ、寮から市道に出る手前約10m地点の通路で、折からの積雪（約2cm）により滑りやすくなっていたために足を滑らせ転倒した。この時身体を庇おうとして右手を、

結など）を十分に加味し距離を十分にとるなど慎重に行う。

2. 退避場所の標示は明確に行い、必ずその箇所へ退避する。
3. 運転手等への合図は退避場所又は定められた箇所で行う複数の場合は同僚の退避を確認してから行う受けた合図は復唱する。
4. それぞれの確認は必ず指差呼称により行う。
5. 荷掛作業は吊荷以外の材の動き滑り振れを予想し上の材から荷かけしより安全な方法で行う。

ついたために、手首を受傷した。右手焼骨々折、手首部にひび全治約1か月の見込

安全のよびかけ

署長

長野営林局における2月9日現在の公災件数は43件となり1月に入り4件、2月本日、までに2件と昨年同期の件数に追っており今後冬期の作業環境等からすると更に災害の多発が考えられる。最近の気象条件は例年にもどり厳しい寒波が続いていることから、冬山の条件を常に頭に入れた安全作業を徹底すること、年度末に向い各種業務の処理事項も多くなることから、安全関係に手ぬかりのないよう、安全指導に努めること。

この安全の呼びかけは2月15日朝のミーティング時に徹底すること。

になっていますが都合で本口話します。

メモってネ！

特に留意する事項

- 1
- 2

署長の安全の呼びかけ、マンネリにならないように重要項目をメモらせ頭に入れるように指導したときのものである。

## Ⅱ 結 果

このような安全活動の結果、昭和59年12月～62年3月まで無災害記録10万時間を達成し、昭和62年度安全衛生大会の席上、局長表彰を受けた。

安全活動の効果として

1. 無災害記録13万2千余時間の達成（昭和63年2月15日現在）
2. 話しを良く聞くようになった。
3. 安全懇談会で発言が増えた。
4. 指差呼称99.9%の定着。

（主任のいるときは確実に実行しているが、いないとき、目ではやっても忘れるときがあったからと現場から出たパーセントである。）

## お わ り に

災害ゼロということは非常に難しいことであり、簡単に出来ることではない。

災害は、人の不安全行動、機械等施設の不安全状態が重なって起きるものである。いずれも人のやることであり、人のやることは“困難であっても”無くせないことではない。

どんな立派な仕事をして、一つ重大災害を起こせば、それが消し飛んでしまう。

安全衛生活動にこれだよということはないが、前任の作業課長から、元気な声だネと、おほめの言葉をいただいた指差呼称も99.9%定着した。

これからもメモ情報による指導を続けるつもりであるが、皆様のアドバイスをお願いし、さらに工夫して参りたい。